
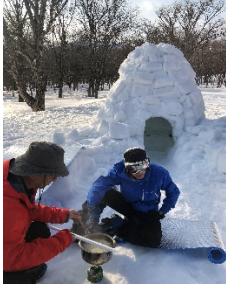


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 03 月 30 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	樋原 慧

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、妙高高原、笹ヶ峰
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 積雪期
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 3 月 22 日 ~ 26 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所 松沢哲郎先生、野生動物研究センター 幸島 司郎先生、静岡大学 杉山 茂先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
平成 30 年 3 月 22 日~26 日に笹ヶ峰実習に参加した。 1 日目：笹ヶ峰到着、明日のスキー実習の説明と準備 2 日目：スキー練習 3 日目：わかんの使い方の講習、イグルー作り 4 日目：スキー練習、焚火 5 日目：帰宅
総評 スキー実習やイグルー作りなどを経験した。雪山での活動は体力を消耗するものが多かったが、体の動きや非常食の携帯など、細部にまでエネルギーの節約を第一とした教えがあった。また留学生達と4日間密なコミュニケーションを交わし、共同生活を送ることで互いの新たな一面を発見した。この冬の笹ヶ峰での経により、昔の自分に戻れなくなってしまったことを非常に喜ばしくおもっている。
1 日目：雪上車でヒュッテへ移動した。天気がよく、眩しくて目がなかなか開けられなかった。ヒュッテの中は想像よりも暖かかった。明日始まるスキー練習の説明にくわえ暖炉に火をくべる方法なども詳しく教えてもらった。 2 日目：人生ではじめてスキー板に乗った。スキー板はすべる時以外にはシールを貼るそう。足をあげて移動するのではなく、両手のストックを用いてスキー板を前後に滑らせるように移動する、と教えてもらった。冬山での生活はいかにエネルギーの無駄な消費を抑えられるか、という部分が重要であり、動き1つとってもその精神が宿っていると感じた。 3 日目：わかんを使用し、登山をした。わかんは足が雪に埋もれることを防ぐために使用する楕円形のもので足にくくりつけて使用する。雪山の登山では、キツネ・タヌキ・カモシカ・ウサギの足跡や糞などを発見した。蹴った場所やその足の爪の特徴などがよく表れていた。 イグルー作りでは、足場を固めてそこからブロックを切り出し積み上げるといった作業を行った。イグルーの中は非常にあたたかく、最終日には動物の足跡や糞がイグルー内外で発見された。やはりイグルーの中はあたたかいのだ。
 
イグルーにて

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

4 日目：スキー練習では直滑降・斜滑降をそれぞれ行った。斜滑降が非常に難しく、足元にかかる体重がコントロールできずなんども崩れ落ちた。雪のうえに木をくみあげて、焚火をした。その際に燃えやすい白樺の樹皮も使用した。

5 日目：ヒュッテを掃除し、犬山へ戻った。

今回の実習の中で、「今回体験した雪山はあらゆる面のうちの一面でしかない」という言葉が強く印象に残った。実習前に、かまくら崩落事故があり、実習中には八ヶ岳で滑落事故もあった。その中で無事に帰れたのも山での生活に長けた先生方がいてくださったからであると感じている。



絶景

6. その他 (特記事項など)

先生方のおかげで実習を無事に終えることができました。ありがとうございました。また、今回の実習は PWS プログラムの支援をうけておこないました。厚くお礼申し上げます。